

VI 薬物乱用対策

1 概況

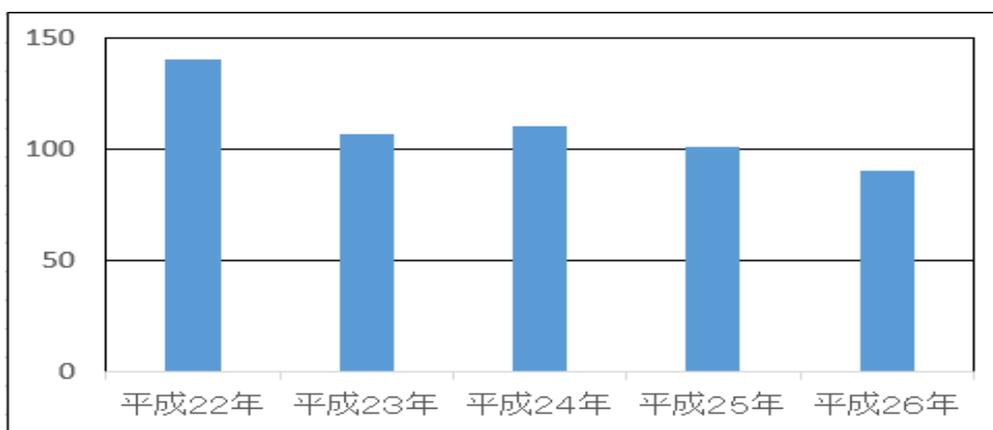
平成26年における県内の覚醒剤事犯による検挙者数は、平成25年と比べて減少している。

また、平成22年から5年連続で、シンナー等乱用少年の検挙・補導人員は、0人であるが、昨年を中心に、全国的に危険ドラッグが蔓延し、これを使用した者が重大な交通事故を起こすなど、乱用薬物の多様化が懸念されている。

このため、平成26年においては、山口県薬物乱用対策推進本部を中心として関係機関、団体との相互連携を図り、学校における薬物乱用防止教育や地域の実情に即応した啓発活動等の対策を積極的に講じた。

2 検挙補導状況

(1) 覚醒剤事犯の年次検挙人員の推移



区分 年別	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
全国（人）	11,993	11,852	11,577	10,909	10,958
山口県（人）	140	107	110	101	90

(2) シンナー等乱用少年の推移

区分 年別	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
全国（人）	225	102	74	32	14
山口県（人）	0	0	0	0	0

（全国数字は「薬物・銃器情勢」から）

3 対 策

(1) 第41回山口県薬物乱用対策推進本部委員会の開催 (H26. 5. 26)

平成26年度薬物乱用対策実施要綱の策定

ア 強化月間等

- (ア) 「ダメ。ゼッタイ。」国際麻薬乱用撲滅ヤングキャンペーン 6月26日他
- (イ) 「ダメ。ゼッタイ。薬物乱用」県民キャンペーン 6月10日から8月31日まで
- (ウ) 麻薬・覚醒剤乱用防止運動 10月1日から11月30日まで
- (エ) 薬物乱用事犯取締強化月間 関係機関が定める期間

イ 実施事項

- (ア) 薬物乱用防止活動の推進に関すること
 - a 関係機関・団体における活動の推進
 - b 薬物乱用防止教育の充実
 - (a) 「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室」の実施
 - (b) 体験学習を通じた意識啓発(高校生、薬物乱用防止指導員等)
 - (c) 「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室」の講師に対する研修
 - c 相談体制の充実
- (イ) 広報・啓発活動の推進に関すること
 - a 報道機関等による広報
 - b 各種運動による啓発活動
 - c 各種イベント、講習会等における啓発
 - d 薬物乱用防止ポスター・標語等の募集及びその活用
 - e 違法ドラッグに対する啓発活動等の実施
- (ウ) 指導取締の強化に関すること
 - a 覚醒剤・大麻等の密輸・密売者に対する取締り
 - b 乱用者に対する指導取締り
 - c 向精神薬取扱者に対する管理の徹底
 - d 違法ドラッグに対する指導取締り
 - e シンナー等取扱業者に対する指導
- (エ) 強化期間等における啓発・取締りに関すること
 - a 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動等キャンペーンの実施
 - b 各機関における取締り

薬物乱用対策組織図

経緯

閣議決定昭和45年6月
総理府に本部を設置
推進会議:平成20年12月26日
閣議口頭了解

構成

関係省庁の職員

経緯

国の薬乱本部長通知

構成

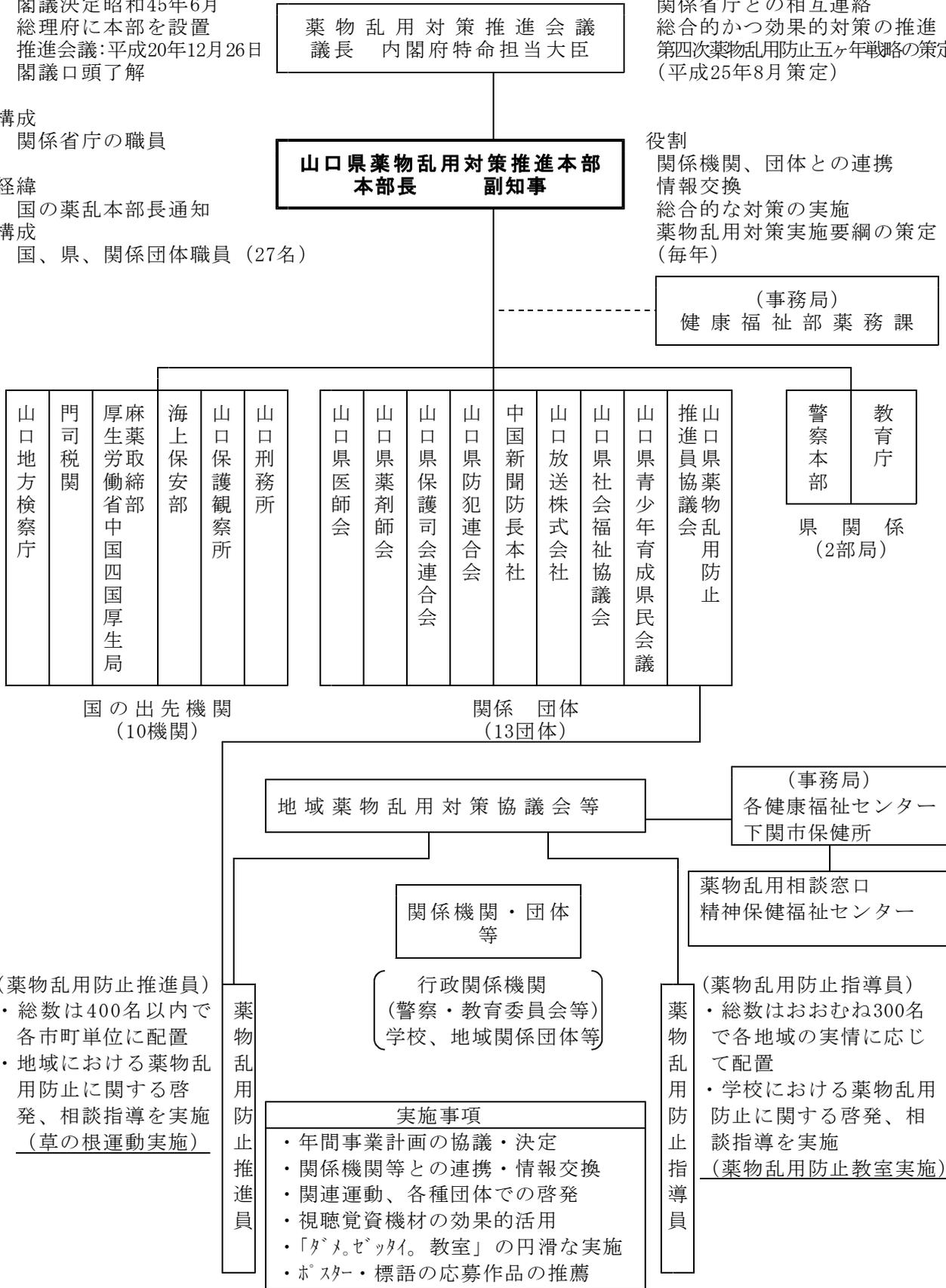
国、県、関係団体職員 (27名)

役割

関係省庁との相互連絡
総合的かつ効果的対策の推進
第四次薬物乱用防止五ヶ年戦略の策定
(平成25年8月策定)

役割

関係機関、団体との連携
情報交換
総合的な対策の実施
薬物乱用対策実施要綱の策定
(毎年)



(薬物乱用防止推進員)
・総数は400名以内で
各市町単位に配置
・地域における薬物乱
用防止に関する啓
発、相談指導を実施
(草の根運動実施)

(薬物乱用防止指導員)
・総数はおおむね300名
で各地域の実情に応じ
て配置
・学校における薬物乱用
防止に関する啓発、相
談指導を実施
(薬物乱用防止教室実施)

- 実施事項**
- ・年間事業計画の協議・決定
 - ・関係機関等との連携・情報交換
 - ・関連運動、各種団体での啓発
 - ・視聴覚資機材の効果的活用
 - ・「タメゼツタイ。教室」の円滑な実施
 - ・ポスター・標語の応募作品の推薦

(2) 平成26年度薬物乱用対策実施状況

地域薬物乱用対策協議会等を中心に、関係機関、団体が連携して地域の実情に即した啓発活動を推進した。

ア 広報活動の推進

(ア) 啓発資料の作成及び活用

種 類	配 布 数	配 布 先 等
ポ ス タ ー	1,500枚	学校、警察署等
薬物乱用防止用テキスト	20,000枚	小学校等
薬物乱用防止用リーフレット	55,000枚	高等学校等
健康に生きよう パート28	2,500部	勤労青少年ホーム等

(イ) 広報活動の実施

広く県民に薬物乱用の持つ恐ろしさや社会に与える影響を啓発するため、次の広報活動を行った。(別表の通り)

- a テレビやラジオ、新聞、有線放送、市町広報誌等を利用した広報
- b 「ダメ。ゼッタイ。」6.26国際麻薬乱用撲滅ヤングキャンペーンの実施
(県内21か所・参加人員 ヤングボランティア等 697人)
- c 街頭キャンペーン等関連運動での啓発
- d 各種会合、講習会等における啓発
- e インターネットによる啓発
 - (a) 薬物乱用防止ポスター・標語受賞作品
 - (b) 高校生「ダメ。ゼッタイ。」体験セミナーレポート
 - (c) 不正大麻・けし撲滅運動

f 薬物乱用防止ポスター・作文募集

(a) ポスターの部 応募作品 400点

<最優秀賞> 1点

学 校 名	学年	氏 名
下関市立長府中学校	1年	塚本健斗

<優 秀 賞> 2点

学 校 名	学年	氏 名
田布施町立田布施中学校	3年	嶋尾菜々子
山口県立高森高等学校	1年	五十嵐晴菜

<佳 作> 3点

学 校 名	学年	氏 名
防府市立華陽中学校	2年	林愛望
山口県立新南陽高等学校	1年	西村花菜
宇部フロンティア大学付属香川高等学校	2年	松田希奈美

(b) 標語の部 応募作品 784点

<最優秀賞> 1点

学 校 名	学年	氏 名
防府市立佐波小学校	5年	皿田羽菜

<優 秀 賞> 2点

学 校 名	学年	氏 名
周南市立久米小学校	2年	山中亮平
野田学園高等学校	2年	野村拓矢

<佳 作> 3点

学 校 名	学年	氏 名
岩国市立そお小学校	6年	河野はな
和木町立和木中学校	2年	松長いぶき
中村女子高等学校	2年	一力真緒

イ 防止活動の強化

地域に密着した、きめ細かな乱用防止の運動を展開するため、関係機関等と連携し、次の防止活動を行った。

(ア) 地域薬物乱用対策協議会等による啓発、指導 8地区

(主な活動内容)

・街頭キャンペーン・イベント等の実施
・「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金運動への協力
・所属団体等の会合・関連運動を通じた啓発
・「危険ドラッグ撲滅」緊急キャンペーンの実施

(地域薬物乱用対策協議会等の名称)

地 域	名 称
岩 国	岩 国 地 区 薬 物 乱 用 防 止 対 策 連 絡 会 議
長 門	長 門 地 区 薬 物 乱 用 防 止 対 策 会 議
下 関 市	下 関 市 薬 物 対 策 協 議 会

(イ) 青少年を取り巻く地域全体で草の根運動として薬物乱用防止対策を組織的、計画的に実施するため、県下8ヶ所に地区協議会を設置している。

a 地区協議会の設立(8地区)

地区名	名 称	設立年月日
岩 国	山口県薬物乱用防止推進員岩国・玖珂地区協議会	平成7年8月25日
柳 井	山口県薬物乱用防止推進員柳井・大島地区協議会	平成7年8月28日
周 南	山口県薬物乱用防止推進員周南地区協議会	平成7年9月7日
山 口	山口県薬物乱用防止推進員山口・防府地区協議会	平成7年11月16日
宇 部	宇部地区薬物乱用防止推進員協議会	平成7年8月30日
長 門	山口県薬物乱用防止推進員長門地区協議会	平成7年9月5日
萩	山口県薬物乱用防止推進員萩地区協議会	平成7年9月7日
下関市	山口県薬物乱用防止推進員下関地区協議会	平成7年8月25日

b 活動状況

(a) 地域への防止ポスターの掲示 678か所

(b) 「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金への協力

募金箱を431か所へ設置する等、(公財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターが実施した「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金運動へ協力した。

募 金 状 況	募 金 額
「ダメ。ゼッタイ。」街頭キャンペーン募金	246,701円
地域団体(薬局、理・美容所、旅館等)キャンペーン及び職域募金	1,386,734円
合 計	1,633,435円

募金額(全国第7位)

(c) 関連運動への参加

167回・推進員参加延数 251人・対象人員 18,987人

(d) 保護者のための薬物乱用防止講習会の開催

3回、推進員参加延数：3人、対象人数：1,850人

(e) 地域のイベントに参加しての啓発

191回・推進員参加延数 339人・対象人員 185,608人

(f) 青少年参加型活動の開催

23回・推進員参加延数 161人・対象人員 15,050人

c 啓発資材作成

品 名	作 成 数
テ ィ ッ シ ュ	25,000個
危険ドラッグ乱用防止啓発リーフレット	30,000枚

(ウ) 「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室」の実施

薬物乱用防止指導員(学校薬剤師等)や警察職員等が生徒・児童に対して薬物乱用の体や社会に与える本当の恐ろしさについて、各種啓発資器材を活用して「薬物乱用ダメ。ゼッタイ。教室」を実施した。

a 実施状況

		学校数	実施数	延べ実施数	実施率(%)	受講生徒数	受講保護者数
小学校	国立	2	2	2	100	140	0
	公立	305	305	307	100	13,421	910
	小計	307	307	309	100	13,561	910
中学校	国立	2	2	2	100	725	0
	公立	153	153	159	100	22,702	107
	私立	8	8	8	100	886	2
	小計	163	163	169	100	24,310	109
高等学校	公立	53	53	77	100	20,036	56
	私立	20	20	21	100	8,438	0
	小計	73	73	98	100	28,474	2
中等教育学校		1	1	1	100	676	58
合計		544	544	577	100	67,006	1,077

(注) 統合、分校化した学校の学校数は、あわせて1として計上 (実施率：実施数／学校数)

b 実施者状況

	警察職員	薬物乱用防止指導員	認定講師	健康福祉センター職員	その他
小学校	98	121	13	72	5
中学校	84	28	12	37	8
高等学校	67	10	3	16	2
中等教育学校	1	—	—	—	—
合計	250	159	28	125	15

(数字は延べ回数)

- (エ) 薬物乱用相談窓口(健康福祉センター、下関市立下関保健所及び精神保健センター設置)における相談の受付、指導

(延べ相談件数)

施設名 \ 内 容	乱用防止啓発指導に関する相談	乱用問題解決に関する相談	計
健康福祉センター及び下関市立下関保健所	32	81	113
精神保健福祉センター		29	29

- (オ) 薬物乱用防止推進員及び薬物乱用防止指導員による啓発

a 薬物乱用防止推進員

- (a) 街頭キャンペーン、各種会合等へ参加した。
 (b) 所属団体組織における意識高揚を図るとともに、所属する団体組織による啓発活動を実施した。

b 薬物乱用防止指導員

- (a) 研修会を開催し、学校において十分な啓発指導が行われるよう指導・助言を行った。
 (b) 街頭キャンペーン等地域啓発活動へ参加した。
 (c) 小・中・高等学校において、薬物乱用防止教育を実施した。

- (カ) 高校生「ダメ。ゼッタイ。」体験セミナーの開催

平成26年7月31日 高校生19名、引率教諭4名、薬物乱用防止指導員等6名参加
 門司税関

(広報展示室(旧門司税関)の見学、麻薬探知犬実演、税関業務等の説明)

美祢社会復帰促進センター

(受刑施設の見学、施設紹介や薬物依存離脱指導者からのメッセージ)

- (キ) 業界団体等の指導

a 向精神薬取扱者に対する指導

薬事等監視実施要領に基づき、県下386施設(業者・医療機関等)に対し、向精神薬の保管管理の徹底及び盗難や不正使用等の未然防止について立入検査を行った。

b シンナー等取扱業者指導

シンナー等販売、取扱い指導(S62.6.4環境保健部長通知)に基づき、県下25施設(店舗・事業所)に対し、シンナー等の適正な販売、保管・管理について指導を行った。

c 注射器取扱者指導

注射器取扱い指導指針(S62.6.12環境保健部長通知)に基づき、県下250施設(業者・医療機関)に対し、注射器の適正な販売、保管・管理について協力要請を行った。

ウ 指導取締状況

○ 麻薬・覚せい剤原料取扱者立入検査(施設数は平成27年4月1日現在)

業 者 項 目	麻 薬			覚 せ い 剤 原 料		
	卸 売 業	小 売 業	麻薬診療施設	取扱指定者	薬 局	病 院 等
施 設 数	31	765	647	34	831	2,165
立入実施数	27	235	154	14	180	100
実施率(%)	87.7	30.7	23.8	41.2	21.7	4.6